

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
専門学校札幌デザイン学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																	
文化・教養	専門課程	ビジュアルデザイン学科 グラフィックデザイン専攻		平成6年文部科学省 告示第八十四号																		
学科の目的	ベーシックデザインから始まり、デッサン、カラープランニングなどで基礎力を付け、現場に即した専攻授業で、実践力を育成。																					
認定年月日	平成26年 3月 31日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																
2年	昼間	1848時間	200時間	0時間	1648時間	0時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
360人の内数	24人	1人	7人	5人	12人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日		卒業・進級 条件	進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格 学費の完納																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。		課外活動	■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 博報堂プロダクツデザインスタジオ、セプテーニアドクリエ ティブ他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就 職に対する正しい認識を指導		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■成績表: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報)																		
	■卒業生数 20 人 ■就職希望者数 15 人 ■就職者数 14 人 ■就職率 : 93 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 70 % ■その他 : (平成 30 年度卒業者に関する 令和1年5月1日 時点の情報)			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>25人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③	25人	22人								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
ビジネス能力検定	③	25人	22人																			
中途退学 の現状	■中途退学者 2名 平成30年5月1日時点において、在学者25名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者23名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の本理由 学修意欲低下、進路変更、病気療養他		■中退率 8%	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																		
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																					
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科の ホームページ URL	https://www.sdg.ac.jp/corse/visual/graphic/																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ビジュアルデザイン学科教育内容

- ① ベーシックデザイン、デッサン、カラープランニング、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成
- ② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム
- ③ 視覚伝達論やデザイン論で、幅広い教養科目
- ④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(毎年9月、2月)

(開催日時)

- 第1回 平成25年11月3日 10:00～11:30
- 第2回 平成26年2月7日 13:00～14:00
- 第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30
- 第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00
- 第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30
- 第6回 平成28年5月19日 12:30～12:50
- 第7回 平成28年12月16日 11:45～12:05
- 第8回 平成29年10月20日 10:00～10:30
- 第9回 平成30年7月30日 16:00～18:00
- 第10回 平成30年10月14日 16:45～18:00
- 第11回 平成31年 3月22日 10:00～11:00
- 第12回 令和元年 11月13日 17:30～18:00
- 第13回 令和2年 3月 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

ビジュアルデザイン学科では、PC操作に対し業界レベルに対応が難しい新卒社会人が見られる意見を受け、その現状を踏まえ、カリキュラムの中で、通常PC操作に加え、3DCG制作、ペンタブを活用したイラストレーション制作を導入し、PCに対する興味を高めた。また、インターンシップや就職活動において、他人とのコミュニケーションスキルが低い学生が多いことに対し、面接練習、社会人としてのマナー教育を姉妹校講師の協力を受けつつ、仕事をする上でコミュニケーション能力が必要だという意識を高くもつように指導した。就職活動におけるポートフォリオの未熟さを指摘された件については、具体的伝達方法としてのグラフィックデザインレベルを高めると共に、制作した本人がプレゼンテーションの重要性を意識し、希望する企業に対し、有効かつ柔軟な就職活動ができるよう授業内外を問わず、その制作を進めるよう指導した。またポートフォリオに収録する作品についても、各授業内で就職先希望動向を確認した上で、応用課題としての実務に近い課題テーマを設定し、より現実味のあるデザイン教育を行っ

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

・カリキュラム・授業内容の編成会議を年4回、教育課程編成会議の意見を踏まえた上で、授業にかかわるすべての講師を参集し講師会という形で行い授業内容の改善に活かしている。
 ・年2回の作品審査会を行い、個々の学生への評価を頂戴することとする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
グラフィックデザイン専攻	企画・制作を基本に、企画に対しての市場調査、更に販売戦略の考え方を実践し、これからの広告や新しい媒体を考え、デザインの在り方を学ぶ。	株式会社DAVIS 田代 全克
デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	フリーアーティスト 曾田 千夏
スキルアップ	表現技術や表現方法を反復し、作品をより良く見せるため	フリーアーティスト 曾田 千夏

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校外で必要な研修機会を設けるものとする。
 年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

札幌 ADCコンペティション&アワード2019 公開審査会に参加 (H30.9月) 北海道広告企業協会主催 クリエイティブ研究会 (H30.9月)

② 指導力の修得・向上のための研修等

・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(年3回) H30.7月、12月、H31.1月

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

SAPPORO ADC コンペティション&アワード 2018公開審査(R1.9月)
 北海道広告企業協会主催 HAAAクリエイティブ研究会 (R01.9月)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。」

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2 学校の特色は適正か 1-3 学校の将来構想を抱いているか

(2) 学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4) 学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3学生に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11) 国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

就職活動のレベルを引き上げる必要があることから、ビジュアルコミュニケーションを中心とした伝達意識の向上はもちろんのこと、各求人企業を招いて行う学内企業説明会においてポートフォリオ添削会を実施し、各企業、目指す職種、専門教育による学習成果、潜在的能力による作品を整理し、就職へのアプローチへのプロット意識の自覚を促した。社会人として、クリエイターとして、コミュニケーション能力、社会との接点を意識させる必要があるという見解を元に、その接点を創出する機会として「アートフェア札幌(11月)」に学生をスタッフとして参加させることで、国内外で活躍するプロアーティストの作品、もしくは、アーティスト本人と交流することで本物のアートを取り巻く状況を理解し、さらに学生自身のクリエイティビティを刺激し、また、観客対応を通して、社会人としての基本的マナー、行動の実践を行うことで、洞察力・判断力が

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きした Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法: ホームページ 公表時期: 令和1年8月)

URL: https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科グラフィックデザイン専攻) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1前期	68	4			○	○		○		
○			デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポジションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1前期	68	4			○	○			○	○
○			カラープランニング	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1前期	68	4			○	○		○		
○			CGI	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1前期	68	4			○	○		○		
○			表現技法	画面に陰影や質感を感じる力を育む。実習を通してマチエールを作る技術や紙の加工技術、特性を身に付ける。	1前期	34	2			○	○		○		
	○		グラフィックデザイン専攻	印刷に関わる基礎から始まり、実際に印刷の工程までを実体験し、また広告の概念から制作を学習する。	1前期	##	6			○	○		○	○	
合計					8科目		476単位時間(28単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科グラフィックデザイン専攻) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1後期	32	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1後期	32	2			○	○		○		
○			デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポジションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1後期	64	4			○	○			○	○
○			カラープランニング	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1後期	32	2			○	○		○		
○			CGI	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1後期	64	4			○	○		○		
○			表現技法	画面に陰影や質感を感じる力を育む。実習を通してマチエールを作る技術や紙の加工技術、特性を身に付ける。	1後期	32	2			○	○		○		
○			自由制作	各学生が研究テーマを持ち、講師の指導のもと実践を伴う制作を行い、知識と技術を習得する。		32	2			○	○		○		
	○		グラフィックデザイン専攻	印刷に関わる基礎から始まり、実際に印刷の工程までを実体験し、また広告の概念から制作を学習する。	1後期	##	8			○			○	○	
合計				9科目		448単位時間(28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科グラフィックデザイン専攻) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	日本のデザインの始まりから、過去、現在を交差しデザインの考え方、手法、こだわりなどを検証し、市場調査や販売戦略の事例や新しい考え方を紹介しながら、媒体の在り方を考えて行く。	2前期	34	2	○			○	○			
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○	○			
○			ビジュアルデザイン	視覚的表現の中で、思いをイラスト化したり、マーク化や数値を分かり易くグラフ化し、より分かり易い視覚化を学ぶ。	2前期	68	4			○	○	○			
○			CG I	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○			○	
○			CG II	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○	○	○		
○			スキルアップ	表現技術や表現方法を反復し、作品をより良く見せるためのプレゼンテーションを学ぶ。	2前期	34	2			○	○	○		○	
	○		グラフィックデザイン専攻	企画・制作を基本に、企画に対しての市場調査、更に販売戦略の考え方を実践し、これからの広告や新しい媒体を考え、デザインの在り方を学ぶ。	2前期	##	10			○	○	○	○	○	
合計					7科目	476単位時間(28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科グラフィックデザイン専攻) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○	○	○		
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○	○	○		
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	##	10			○	○	○	○		
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○	○	○		
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○	○	○		
合計				5科目		448単位時間(28単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
専門学校札幌デザイン学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																					
文化・教養	専門課程	ビジュアルデザイン学科 イラストレーション・キャラクターデザイン専攻		平成6年文部科学省告示第八十四号																						
学科の目的	イラストレーション・キャラクターデザイン専攻では、実技トレーニング中心の学習で幅広いイラストレーションの技法の基礎から応用までを修得。ページデザインから始まり、オリジナリティを尊重しつつも、業界が求めるスキルまで高める。またあらゆるフィールドでの活躍を視野に入れた教育内容(コミュニケーション、マナーなど)は社会人としての自覚も形成するものである。																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																				
2年	昼間	1848時間	200時間	0時間	1648時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
360人の内数	62人	1人	7人	5人	12人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月18日 ■後期:9月30日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月31日～8月25日 ■冬季:12月21日～1月14日 ■学年末:2月18日～3月31日		卒業・進級条件	進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格、学費完納																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。		課外活動	■課外活動の種類 コンベンなどへ自主的参加																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) メタサイト、オートクチュール、石栗写真館、ビー・リガーレ他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数 31 人 ■就職希望者数 20 人 ■就職者数 18 人 ■就職率 : 90 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 58 % ■その他 (2018年度卒業生に関する 2019/5/1時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■課外活動の種類 コンベンなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td>33人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 第59回学生美術全道展(北海道新聞社・全道美術協会主催)優秀賞 神谷麻友			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定	③	33人	22人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
ビジネス能力検定	③	33人	22人																							
中途退学の現状	■中途退学者 3名 平成30年5月1日時点において、在学者64名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者61名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、病気療養他 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。		■中退率 5%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	https://www.sdg.ac.jp/corse/visual/illust-character/																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ビジュアルデザイン学科教育内容

- ① ベーシックデザイン、デッサン、カラープランニング、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成
- ② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム
- ③ 視覚伝達論やデザイン論で、幅広い教養科目
- ④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年10月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(毎年9月、2月)

(開催日時)

- 第1回 平成25年11月3日 10:00～11:30
- 第2回 平成26年2月7日 13:00～14:00
- 第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30
- 第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00
- 第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30
- 第6回 平成28年5月19日 12:30～12:50.
- 第7回 平成28年12月16日 12:05～12:15
- 第8回 平成29年10月20日 10:00～10:30
- 第9回 平成30年7月30日 16:00～18:00
- 第10回 平成30年10月14日 16:45～18:00
- 第11回 平成31年3月22日 10:00～11:00
- 第12回 令和1年11月13日 17:00～17:30
- 第13回 令和2年 3月 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

ビジュアルデザイン学科では、PC操作に対し業界レベルに対応が難しい新卒社会人が見られる意見を受け、その現状を踏まえ、カリキュラムの中で、通常PC操作に加え、3DCG制作、ペンタブを活用したイラストレーション制作を導入し、PCに対する興味を高めた。また、インターンシップや就職活動において、他人とのコミュニケーションスキルが低い学生が多いことに対し、面接練習、社会人としてのマナー教育を姉妹校講師の協力を受けて、仕事をする上でコミュニケーション能力が必要だという意識を高くもつように指導した。就職活動におけるポートフォリオの未熟さを指摘された件については、具体的伝達方法としてのグラフィックデザインレベルを高めると共に、制作した本人がプレゼンテーションの重要性を意識し、希望する企業に対し、有効かつ柔軟な就職活動ができるよう授業内外を問わず、その制作を進めるよう指導した。またポートフォリオに収録する作品についても、各授業内で就職先希望動向を確認した上で、応用課題としての実務に近い課題テーマを設定し、より現実味のあるデザイン教育を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

・カリキュラム・授業内容の編成会議を年4回、教育課程編成会議の意見を踏まえた上で、授業にかかわるすべての講師を参集し講師会という形で行い授業内容の改善に活かしている。
 ・年2回の作品審査会を行い、個々の学生への評価を頂戴することとする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポーションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	フリーアーティスト 曾田 千夏
イラストレーション・キャラクターデザイン I	印刷に関わる基礎から始まり、実際に印刷の工程までを実体験し、また広告の概念から制作を学習する。	株式会社ペイントモンスター 伊藤マーティー
イラストレーション・キャラクターデザイン II	クロッキーを習慣化することにより、今後分科するゲーム系、アニメ系、デザイン系、アート系進路への絵柄強化を図る。より応用的な材料に触れ、自分の表現の幅を広げる。	株式会社ペイントモンスター 伊藤マーティー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校外で必要な研修機会を設けるものとする。
 年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

博報堂プロダクツデザインスタジオ 企業説明会に参加 企業が求める人材、技術を学ぶ(H30.7)
 北海道アズマシィ 企業説明会に参加 企業が求める人材、業界について学ぶ(H30.06/13)
 pixyda(ゲーム) 企業説明会に参加 企業が求める人材、業界について学ぶ(H30.06/13)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

北海道イラストレーターズクラブアルファMY WORK31 イラストレーション展(R1.10.31~11.5)
 博報堂プロダクツデザインスタジオ 企業説明会に参加 企業が求める人材、技術を学ぶ(R1.7.24)
 株式会社ジーアングル 企業説明会に参加 企業が求める人材、業界について学ぶ(R1.10.10)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40財務について会計監査が適正に行われているか 8-41財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

就職活動のレベルを引き上げる必要があることから、ビジュアルコミュニケーションを中心とした伝達意識の向上はもちろんのこと、各求人企業を招いて行う学内企業説明会においてポートフォリオ添削会を実行し、各企業、目指す職種、専門教育による学習成果、潜在的な能力による作品を整理し、就職へのアプローチへのプロット意識の自覚を促した。社会人として、クリエイターとして、コミュニケーション能力、社会との接点を意識させる必要があるという見解を元に、その接点を創出する機会として「アートフェア札幌(11月)」に学生をスタッフとして参加させることで、国内外で活躍するプロアーティストの作品、もしくは、アーティスト本人と交流することで本物のアートを取り巻く状況を理解し、さらに学生自身のクリエイティビティを刺激し、また、観客対応を通して、社会人としての基本的マナー、行動の実践を行うことで、洞察力・判断力が必要という仕事におけるコミュニケーション能力を高めることに成功している

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きした Studio BACU CGIディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法: ホームページ 公表時期: 令和1年8月)

URL: https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供方法: [本校公式ホームページ](#)

<https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/8f1b0d77f4fcb54215775fc8ee61a948.pdf>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科イラストレーション・キャラクターデザイン専攻) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1 前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1 前期	34	2	○			○		○		
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1 前期	68	4			○	○		○		
○			デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポジションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1 前期	68	4			○	○			○	○
○			カラープランニング	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1 前期	68	4			○	○		○		
○			CGI	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1 前期	68	4			○	○		○		
○			表現技法	画面に陰影や質感を感じる力を育む。実習を通してマチエールを作る技術や紙の加工技術、特性を身に付ける。	1 前期	34	2			○	○		○		
	○		イラストレーション・キャラクターデザイン I	前期は技法の習得に重点を置くが、強調と省略によって特徴を引き出すこと。そしてフォトリアリズムイラストを描ききることに。	1 前期	##	6			○	○		○	○	
合計					8科目	476単位時間(28単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科イラストレーション・キャラクターデザイン専攻) 2019年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			視覚伝達論	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの有り方の違いなど、ビジュアルを主とするコミュニケーションの方法論を学ぶ。	1 後 期	32	2	○			○		○			
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1 後 期	32	2	○			○		○			
○			ベーシックデザイン	デザインに必要な平面・空間構成の方法論を学び、あらゆるデザインワークに対応できるように基礎を学習する。	1 後 期	32	2				○	○		○		
○			デッサン	デッサンの基礎の習得から構図やプロポジションなど、物の見方・影の捉え方について学ぶ。	1 後 期	64	4				○	○			○	○
○			カラープランニング	道具の正しい使い方を演習を通じて習得し、平塗り、混色、イメージ配色へと発展させていく。	1 後 期	32	2				○	○		○		
○			CGI	イラストレーターやフォトショップのソフトを使用し、デザイナーに必要な基礎知識や技術を身につける。	1 後 期	64	4				○	○		○		
○			表現技法	画面に陰影や質感を感じる力を育む。実習を通してマチエールを作る技術や紙の加工技術、特性を身に付ける。	1 後 期	32	2				○	○		○		
○			自由制作	各学生が研究テーマを持ち、講師の指導のもと実践を伴う制作を行い、知識と技術を習得する。			32	2				○	○		○	
	○		イラストレーション・キャラクターデザイン I	印刷に関わる基礎から始まり、実際に印刷の工程までを実体験し、また広告の概念から制作を学習する。	1 後 期	##	8				○			○	○	○
合計				9科目		448単位時間(28単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科イラストレーション・キャラクターデザイン専攻) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	日本のデザインの始まりから、過去、現在を交差しデザインの考え方、手法、こだわりなどを検証し、市場調査や販売戦略の事例や新しい考え方を紹介しながら、媒体の在り方を考えて行く。	2前期	34	2	○			○	○			
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○	○			
○			ビジュアルデザイン	視覚的表現の中で、思いをイラスト化したり、マーク化や数値を分かり易くグラフ化し、より分かり易い視覚化を学ぶ。	2前期	68	4			○	○	○			
○			CG I	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○	○	○		
○			CG II	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○	○	○		
○			スキルアップ	表現技術や表現方法を反復し、作品をより良く見せるためのプレゼンテーションを学ぶ。	2前期	34	2			○	○		○		
	○		イラストレーション・キャラクターデザイン II	クロッキーを習慣化することにより、今後分科するゲーム系、アニメ系、デザイン系、アート系進路への絵柄強化を図る。より応用的な材料に触れ、自分の表現の幅を広げる。	2前期	##	10			○	○	○	○	○	
合計				7科目	476単位時間(28単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ビジュアルデザイン学科イラストレーション・キャラクターデザイン専攻) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○	○	○		
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○	○	○		
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	##	10			○	○	○	○		
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○	○	○		
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○	○	○		
合計					5科目		448単位時間(28単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地															
専門学校札幌デザイン学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地															
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士													
文化・教養	専門課程	インテリア学科 インテリア専攻		平成6年文部科学省 告示第八十四号														
学科の目的	インテリア分野におけるプロとして必要な、基礎と実務知識を習得することを目的とし、旬の知識や情報を常に授業に取り入れ習得する。インテリア計画の基本やインテリアエレメント(家具、照明器具、カーテンなど)の商品知識を学び、機能と空間の関わり方など課題を通して実践し、現場で即戦力となりうる人材を育成する。																	
認定年月日	平成26年 3月 31日																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技											
	2年 昼間	1848時間	332時間	0時間	1516時間	0時間	0時間											
生徒総定員	生徒実員	留學生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
80人の内数	31人	0人	3人	4人	7人													
学期制度	■前期:4月1日～9月24日 ■後期:9月25日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)													
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月25日～8月29日 ■冬季:12月19日～1月10日 ■学年末:2月10日～3月31日			卒業・進級 条件	進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格、学費の完納													
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。			課外活動	■課外活動の種類 コンベンなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無													
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 大成建設ハウジング、アートホーム、エステム建築、グレイ美術、他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報)													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リビングスタイリスト</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>建築CAD</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス検定</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	リビングスタイリスト	③	13人	12人	建築CAD	③	13人	6人	ビジネス検定	③
資格・検定名	種	受験者数	合格者数															
リビングスタイリスト	③	13人	12人															
建築CAD	③	13人	6人															
ビジネス検定	③	13人	12人															
中途退学 の現状	■中途退学者 4名 平成30年5月1日時点において、在学者29名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者25名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由等			■中退率 14%														
	■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。																	
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																	
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																	
当該学科の ホームページ URL	https://www.sdg.ac.jp/corse/interior/coordinate/																	

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

インテリア学科教育内容

①ベーシックデザイン、デッサン、ドローイング、基礎CADは必修科目で、基礎力を育成

②専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム

③視覚伝達論やインテリア学で、幅広い教養科目

④就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(毎年9月、2月)

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 13:20～14:50

第2回 平成26年2月7日 14:00～15:00

第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30

第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30

第6回 平成28年5月19日 12:50～13:10

第7回 平成28年12月16日 12:05～12:15

第8回 平成29年10月20日 10:30～11:00

第9回 平成30年7月30日 16:00～18:00

第10回 平成30年10月14日 16:45～18:00

第11回 平成31年3月22日 10:00～11:00

第12回 令和1年11月13日 17:00～17:30

第13回 令和2年 3月 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

インテリア学科は、高いプレゼンテーション能力を求められる。よって学科・専攻を超えたカリキュラム編成が望ましいとの意見を受け、イフストーリーやフォトショップなどCG系授業をビジュアルデザイン学科の教員が実務を想定した授業を行っている。また、社会性の教育が必要との指摘を受け、ソーシャルコミュニケーション授業の担当講師を姉妹校である、札幌観光プライダル・製菓専門学校 エアライン学科の講師に変更し、学生の接客・マナー向上に努めた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

専攻授業を設け、専攻学科の学生全員が受講。現役で活躍する経験豊富なコーディネーター・アドバイザーを講師陣とし、旬の知識や情報を常に授業取り入れ活かし、授業の中で、実務での様子や経験したことを直接学ぶ。年4回の講師会で、カリキュラム・授業内容、進め方を確認し、問題があれば改善する。また、年2回の作品審査会を行い、学生への評価・意見を頂戴することとする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インテリアデザインⅠ・Ⅱ	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	米川建築設計事務所 主宰 米川 雅喜
インテリアコーディネートⅠ・Ⅱ	専用住宅の単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法など住宅を計画する上での基礎知識を習得する。	(株)アトリエ樹 取締役 金山 美保子
モデリング	主にスチレンボードを使用しての模型制作。基礎的な道具の使用方法や素材についての知識、制作の技術を学ぶ。	株式会社Enterprise 栄戸 輝彦

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校内外で必要な研修機会を設けるものとする。

年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

A&A 株式会社 マーケティング本部 教育支援部 福原弘之様に今後のCAD授業のあり方や現場でのVRやBIMの使用状況や方法についてレクチャーを受ける。(4月)

DIKO電機ショールーム ライティングコア札幌、照明勉強会(5月)

TDY札幌コラボレーションショールーム 住設セミナー(6月)

②指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

近浦 啓氏 クリエイティブセミナー(7月)企業側の立場として、クリエイターの就職に必要な力、採用の考え方についてお聞きし、今後の学生への就職指導の参考とする。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

DIKO電機ショールーム ライティングコア札幌、照明勉強会(5月)

TDY札幌コラボレーションショールーム 住設セミナー(6月)

LIXILショールーム札幌見学(11月)

札幌ファニッシング ショールーム見学(10月)

②指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)□

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること」

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3陸上競技場に関する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

ビジネスを行う上で必要な最低限のPCスキル・社会性を習得させる必要があるとの意見を踏まえ、イラストレーター・フォトショップなどデザインに関わるPCスキルだけではなく、エクセル、パワーポイントなどを授業に組み入れた。また学生の社会性が低いとの指摘を受け、ソーシャルコミュニケーション授業担当講師を姉妹校である、札幌観光ブライダル・製菓専門学校のエアライン学科講師に変更し、学生の接客・マナーの向上に努めた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法: ホームページ 公表時期: 令和1年8月)

URL: https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 インテリア学科インテリアコーディネート専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○	○			
○			インテリア計画Ⅰ	単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法などインテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	1前期	34	2	○			○	○			
○			インテリア計画Ⅱ	インテリアに関する商品・材料の基本的な知識と商品知識。そして、機能と空間の関わり方など基礎事項を項目ごとに学ぶ。	1前期	34	2	○			○	○			
○			リビングコミュニケーション	リビングスタイリストとして、インテリアをはじめとする住生活商品を買求める消費者に商品の魅力を説明出来、適切な提案を行うことができるスキルを学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○	○	
○			ベーシックデザイン	造形の基本となる形態、造形美の原理などデザインの基本的理論・定理を建築やインテリアに照らし合わせ学び、演習を通して理解すると共にイメージ・発想力を強化し、デザインの基礎的な美的感性を鍛える。	1前期	34	2			○	○		○		
○			プレゼンテーションテクニックⅠ	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するためのパース、アイソメなど表現技術を身につける。	1前期	34	2			○	○		○		
○			CADⅠ	CADソフトを使用し、設計製図を行う。CADの操作技術・表現技法を確実なものとし、即戦力を養う。	1前期	68	4			○	○		○		
○			ドローイング	立体を平面で説明するための製図を手書きを中心に学習する。またデザインをまとめる為の正しい作業の流れを理解する。	1前期	68	4			○	○		○		
○			インテリアデザインⅠ	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	1前期	68	4			○	○		○	○	
○			インテリアコーディネートⅠ	専用住宅の単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法など住宅を計画する上での基礎知識を習得する。	1前期	68	4			○	○		○	○	
合計				10科目	476単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 インテリア学科インテリアコーディネート専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	32	2	○			○	○			
○			インテリア計画Ⅰ	単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法などインテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	1前期	32	2	○			○	○			
○			インテリア計画Ⅱ	インテリアに関する商品・材料の基本的な知識と商品知識。そして、機能と空間の関わり方など基礎事項を項目ごとに学ぶ。	1前期	32	2	○			○	○			
○			カラースキム	各分野に広く活用できる「理論に裏付けられた色彩の基本」を学ぶ。	1後期	32	2	○			○		○	○	
○			ベーシックデザイン	造形の基本となる形態、造形美の原理などデザインの基本的理論・定理を建築やインテリアに照らし合わせ学び、演習を通して理解すると共にイメージ・発想力を強化し、デザインの基礎的な美的感性を鍛える。	1前期	32	2			○	○		○	○	
○			プレゼンテーションテクニックⅠ	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するためのパース、アイソメなど表現技術を身につける。	1前期	32	2			○	○		○		
○			CADⅠ	CADソフトを使用し、設計製図を行う。CADの操作技術・表現技法を確実なものとし、即戦力を養う。	1前期	64	4			○	○		○		
○			ドローイング	立体を平面で説明するための製図を手書きを中心に学習する。またデザインをまとめる為の正しい作業の流れを理解する。	1前期	64	4			○	○		○		
○			インテリアデザインⅠ	店舗デザインの基本となる商業空間の機能や役割を学び、商業施設デザイン課題制作を通して、プランニングをまとめる力を養う。	1前期	64	4			○	○			○	○
○			インテリアコーディネートⅠ	専用住宅の単位空間を中心に機能的な寸法や計画の方法など住宅を計画する上での基礎知識を習得する。	1前期	64	4			○	○			○	○
合計				10科目	448単位時間(28単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 インテリア学科インテリアコーディネート専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○		○		
○			インテリア計画Ⅲ	機能的な寸法や計画の方法など、機能と空間の関わり方など、インテリアを計画する上での基礎知識を学ぶ。	2前期	34	2	○			○		○		
○			CADⅡ	3D-CADの基本的な操作技術・表現技法を学び、即戦力としての能力を身に付ける。	2前期	68	4			○	○		○		
○			プレゼンテーションテクニックⅡ	インテリア業界で必要とされている、イラストレーター・フォトショップの基礎から応用を学び、プレゼンテーションに役立てる。	2前期	68	4			○	○		○		
○			モデリング	主にスチレンボードを使用しての模型制作。基礎的な道具の使用方法や素材についての知識、制作の技術を学ぶ。	2前期	68	4			○	○			○	○
○			空間計画	課題作成を通して、イメージした空間を人に伝達するための作画・表現技術を身につける。	2前期	68	4			○	○		○		
○			インテリアデザインⅡ	図面での表現を基本としながら、模型やパース表現でのプレゼンテーション手法や構成、表現力を養う。	2前期	68	4			○	○			○	○
○			インテリアコーディネーターⅡ	インテリアの各エレメントを適切に選択し、効果的にインテリアに生かすことと、マンションや戸建住宅のリフォームから使いやすさなどを提案していく。	2前期	68	4			○	○			○	○
合計					8科目		476単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 インテリア学科インテリアコーディネート専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○		○	△	○
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	△	○
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	##	10			○	○		○	△	○
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	4			○	○		○	△	○
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけではなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○		○	△	○
合計					9科目		448単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
専門学校札幌デザイン学院	平成1年12月28日	澁谷 俊彦	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2800																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人北海道安達学園	平成1年11月28日	安達 保敏	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																	
文化・教養	専門課程	ファッション学科 ファッション専攻		平成6年文部科学省 告示第八十四号																		
学科の目的	ブランド企画の方法、パターン、縫製、販促方法、販売までトータルで学び現場で即戦力となる人材を育成する。																					
認定年月日	平成26年 3月 31日																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																
2年	昼間	1848時間	300時間	0時間	1548時間	0時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
80人の内数	27人	1人	2人	6人	6人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月18日 ■後期:9月30日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ABCDE(E=未習得)																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月2日 ■夏季:7月31日～8月25日 ■冬季:12月21日～1月14日 ■学年末:2月18日～3月31日		卒業・進級 条件	進級:出席率90%以上 単位習得85%以上 進級制作審査合格 卒業:出席率90%以上 単位習得85%以上 卒業制作審査合格、学費の完納																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談等の実施。		課外活動	■課外活動の種類 コンペなどへ自主的参加 ■サークル活動: 無																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) サマンサタバサ、アーバンリサーチ、オンワード樺山 他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業生数 : 14 人 ■就職希望者数 : 11 人 ■就職率 : 91 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 71 % ■その他 (2018年度卒業生に関する 2019/5/1時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和1年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ファッションビジネス 検定</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>ファッション販売能 力検定</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>7人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ファッションビジネス 検定	③	15人	7人	ファッション販売能 力検定	③	7人	4人	色彩検定	③	12人	7人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																			
ファッションビジネス 検定	③	15人	7人																			
ファッション販売能 力検定	③	7人	4人																			
色彩検定	③	12人	7人																			
中途退学 の現状	■中途退学者 4名 平成30年5月1日時点において、在学者29名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者25名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、転専攻、転学科の実施。 学科担当教員が、日頃より学生とコミュニケーションを密にする。		■中退率 14%																			
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																					
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科の ホームページ URL	https://www.sdg.ac.jp/corse/fashion/business/																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ファッション学科教育内容

① ベーシックデザイン、デッサン、ファッション造形、基礎CGは必修科目で、基礎力を育成

② 専攻授業で即戦力を養成するカリキュラム

③ 視覚伝達論やデザイン論で、幅広い教養科目

④ 就職に向け、ソーシャルコミュニケーションや就職対策でビジネス能力検定やマナー、面接などを学ぶ

上記の教育内容を企業等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能等を反映するため、企業等の意見を十分に活かし改善等計って行く。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会の位置づけとして、当委員会の審議を通して、業界が求める人材、および専門的スキルを持った社会人教育環境実現の機能を持つものとする。その審議を通じ、効果的に専門教育に反映できるよう業界の第一線に身を置く学校外委員の客観的見地を有効かつ最大限に活用することで、最新の業界情勢を見据えたカリキュラム(授業内容・インターンシップ・就職セミナー)を構築できるよう、積極的意見を交換するデザイン業界と教育現場を結ぶ委員会として機能するカンファレンスである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	①
岡田 善敬	札幌大同印刷株式会社	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
増永 佳奈	インテリアコーディネーター協会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
木下 直樹	KIC株式会社 部長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	③
澁谷 俊彦	専門学校札幌デザイナー学院 学校長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
立岡 好人	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
木村 馨	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
東出 圭介	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	
高島 幸直	専門学校札幌デザイナー学院	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回(毎年9月、2月)

(開催日時)

第1回 平成25年11月3日 15:00～16:30

第2回 平成26年2月7日 15:00～16:00

第3回 平成26年9月19日 10:00～11:30

第4回 平成27年2月26日 12:30～14:00

第5回 平成27年12月18日 12:30～13:30

第6回 平成28年5月19日 13:10～13:30

第7回 平成28年12月16日 12:15～12:35

第8回 平成29年10月20日 11:00～11:30

第9回 平成30年7月25日 9:30～10:30

第10回 平成30年10月14日 16:45～18:00

第11回 平成31年3月22日 10:00～11:00

第12回 令和1年11月13日 17:00～17:30

第13回 令和2年 3月 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

アパレルの業界動向等のご意見を頂戴し、カリキュラムに反映させるなどの改善を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

課題制作・打ち合わせ・発表を通し実作業の経験を繰り返し習得させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

- ・カリキュラム・授業内容の編成会議を年4回、講師会という形で行い授業内容の改善に活かしている。
- ・年2回の作品審査会を行い、学生への評価を頂戴することとする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ファッション造形Ⅰ	衣装制作を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作	フリーデザイナー 安楽 恵子
ファッションデザイン	デッサンを通じた作品完成予想の視覚伝達方法の学習する	フリーデザイナー 安楽 恵子

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教員は実践的かつ専門的な知識・技術・技能及び指導力の修得・向上を図ることを目的とし、年2回以上の研修計画を策定し、校外で必要な研修機会を設けるものとする。

年2回、定期的に学科毎に開催する業界研修会において関連企業の方を招き、情報収集や情報共有を行い業界の最新情報を把握することで、教員の資質向上へ活かしている。また指導力修得、向上のための各種研修会に参加するものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

ACFアートステージ(ファッションショー)参加(H30.10/6)
ファッションデザイナー中田龍三様 セミナー参加(R1.7/24)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

ACFアートステージ(ファッションショー)参加(10月12日)
ファッションデザイナー中田龍三様セミナー参加(12月頃予定)

② 指導力の修得・向上のための研修等

北海道私立専修学校各種学校連合会主催 教員研修会(7月、12月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2 学校の特色は適正か 1-3 学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1 運営方針は定められているか 2-2 事業計画は定められているか 2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5 意思決定システムは確立されているか 2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	3-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3 カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8 教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
(4) 学修成果	4-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2 資格取得率の向上が図られているか 4-3 退学率の低減が図られているか 4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 学生支援	5-1 就職関する体制は整備されているか 5-2 学生相談に関する体制は整備されているか 5-3 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7 保護者と適切に連携しているか 5-8 卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2 学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3 防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	7-1 学生募集活動は、適正に行われているか 7-2 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3 入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40 財務について会計監査が適正に行われているか 8-41 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2 個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11) 国際交流	11-1 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
 ビジネスを行う上で必要な最低限のPCスキル・社会性を習得させる必要があるとの意見を踏まえ、イラストレーター・フォトショップなどデザインに関わるPCスキルだけではなく、エクセル、パワーポイントなどを授業に組み入れた。またソーシャルコミュニケーション授業担当講師を姉妹校である、札幌観光ブライダル・製菓専門学校のエアライン学科講師に変更し、学生の接客・マナーの向上に努めた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年10月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社きしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成31年4月1日～令和2年3月31日 1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (公表方法: ホームページ 公表時期: 令和1年8月)

URL: https://www.sdg.ac.jp/top/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SDG_20160301.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

<https://www.sdg.ac.jp/%E6%83%85%E5%A0%B1%E5%85%AC%E9%96%8B/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッション学科ファッション専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			デザイン論	ファッションの歴史を学び、デザインとの関わりを学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	34	2	○			○		○		
○			カラー	デザインの基礎となる色彩感覚を養うと同時に、色彩検定の対策も行う。	1前期	34	2			○	○			○	
○			ファッションデザイン	デッサンを通じた作品完成予想の視覚伝達方法の学習する。	1前期	34	2			○	○			○	○
○			ファッション造形Ⅰ	衣装制作を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作。	1前期	68	4			○	○			○	○
○			ヘアメイク	ファッションやTPOに合わせたメイクアップ基礎とファッションイベント等に対応出来る美容テクニックを学習する。	1前期	34	2			○	○			○	
○			ファッション知識	ファッションビジネスを理解し、デザインの考え方や発想方法を学ぶ。	1前期	34	2	○			○		○		
○			CG	コンピューターの基礎から、イラストレーター・フォトショップを中心に、技術・表現方法を学ぶ。	1前期	34	2			○	○			○	
○			ファッションビジネスⅠ	ロールプレイングを通してプレゼンテーションの方法を学ぶ	1前期	34	2			○	○		○		
○			ファッションビジネスⅡ	様々なスタイリングの方法を学び、デザイン、スタイリングに活用する	1前期	34	2			○	○		○		
○			ファッションビジネスⅢ	マップ作成をとおしてブランド構築の基礎を学ぶ	1前期	34	2			○	○		○		
○			ファッション造形Ⅱ	服飾雑貨制作等を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作。	1前期	68	4			○	○			○	
合計				12 科目				476単位時間(28 単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッション学科ファッション専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グローバルランゲージ	海外のバイイング、インバウンド対応のための英会話を習得する	1前期	32	2	○			○		○		
○			ソーシャル・コミュニケーション	社会人としての基本的なマナーやビジネス文書を学習。ビジネス能力検定のための学習も行う。	1前期	32	2	○			○		○		
○			カラー	デザインの基礎となる色彩感覚を養うと同時に、色彩検定の対策も行う。	1前期	32	2			○	○			○	
○			ファッションデザイン	デッサンを通じた作品完成予想の視覚伝達方法の学習する。	1前期	32	2			○	○			○	○
○			ファッション造形Ⅰ	衣装制作を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作。	1前期	64	4			○	○			○	○
○			ヘアメイク	ファッションやTPOに合わせたメイクアップ基礎とファッションイベント等に対応出来る美容テクニックを学習する。	1前期	32	2			○	○			○	
○			ファッション知識	ファッションビジネスを理解し、デザインの考え方や発想方法を学ぶ。	1前期	32	2	○			○		○		
○			CGⅡ	コンピューターの基礎から、イラストレーター・フォトショップを中心に、技術・表現方法を学ぶ。	1前期	32	2			○	○			○	
○			ファッションビジネスⅠ	ロールプレイングを通してプレゼンテーションの方法を学ぶ	1前期	32	2			○	○		○		
○			ファッションビジネスⅡ	様々なスタイリングの方法を学び、デザイン、スタイリングに活用する	1前期	32	2			○	○		○		
○			ファッションビジネスⅢ	マップ作成をとおしてブランド構築の基礎を学ぶ	1前期	32	2			○	○		○		
○			ファッション造形Ⅱ	服飾雑貨制作等を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作。	1前期	64	4			○	○			○	
合計			12 科目		448単位時間(28 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッション学科ファッション専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グローバルランゲージ	海外のバイイング、インバウンド対応のための英会話を習得する	2前期	34	2	○			○			○	
○			就職対策	実践に即して、企業訪問、面接試験、就職用ポートフォリオ作成の指導を行う。	2前期	34	2	○			○			○	
○			ファッション造形Ⅰ	衣装制作を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作。	2前期	102	6			○	○			○	○
○			ファッション知識	業界研究や、必要とされる計数などについて学び、業界への理解を深める	2前期	34	2	○			○			○	
○			CG	実践作業を中心にデザイナーとしての、より高いスキルと意識を身につける。イラストレーターやフォトショップの復習・応用。	2前期	68	4			○	○			○	
○			ファッション造形Ⅱ	服飾雑貨制作等を通じて、ファッションショーや作品発表に於ける様々な表現ツールを制作。	2前期	68	4			○	○			○	
○			ファッションビジネスⅠ	ロールプレイングを通してプレゼンテーションの技術を身に付ける	2前期	34	2			○	○			○	
○			ファッションビジネスⅡ	ビジュアルマーチャンダイジング演習を通じ空間演出の方法を学ぶ。ブランド企画のためのマーケティング方法を学ぶ	2前期	68	4			○	○			○	
○			ファッションビジネスⅢ	ファッションショーの運営を通して企画力を養う	2前期	34	2								
合計				7 科目											476単位時間(28単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッション学科ファッションビジネス専攻) 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業制作・企画	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	96	6			○	○		○	△	
○			卒業制作・制作	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	128	8			○	○		○	△	
○			卒業制作・演習	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	128	8			○	○		○	△	
○			卒業制作・作品	2年間の集大成として、学科・専攻で学んだ知識・技術を活かし制作。1次審査と最終審査を経て卒業制作展で展示を行う。	2後期	64	4			○	○		○	△	
○			卒業制作・スキルアップ	卒業制作の作品作りだけでなく、就職用のポートフォリオを充実させ、何時でも就職活動出来るよに作品制作。	2後期	32	2			○	○		○		
合計			5 科目			448 単位時間			(28 単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
出席率90%以上・単位取得85%以上・卒業制作審査合格・学費の完納	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。